

2001.9/22-24 穂高連峰縦走(岳沢 - 前穂 - 奥穂 - 北穂 - 南岳 - 横尾)

コース

河童橋 1400 m - 岳沢ヒュッテ 2216 m - 紀美子平 2900 m - 前穂高岳 3090 m - 奥穂高岳 3190 m(泊) - 涸沢岳 3103 m - 北穂高岳 3106 m - 大キレット 2748 m - 南岳 3033 m - 天狗原 2524 m - ババ平 2000 m(泊) - 槍沢ロッジ - 横尾山荘 1650 m - 新村橋 1590 m - 山のひだや 1500 m - 河童橋 1400m

メンバー

大塚賢一 46 才、木倉博 39 才、岸本陽介 28 才、望月証 28 才

7年ぶりの穂高連峰。

奥穂高岳にたどり着き大休止をとっていると、そのときの踏み跡が走馬灯のように蘇ってきてまるで昨日のように鮮明に思い出せる。それほどに強烈な印象として残っているのである、それもそのはず私にとって初めての縦走登山がこの西穂 - 槍縦走だったのである。

雲一つない紺碧の空に突き抜けるように猛々しい勇姿でそびえ立つ岩峰群。

太陽に照らされ朝露乾くころ、その肌はほどよく暖められ「早く登ってこいよ～」と言わんばかりに手招きしているようだ。それほどの上天気にも恵まれた縦走であった。

しかし、そんな好天であっても少しの油断からか遠く九州から来た女性2人が滑落(西穂岳付近と飛騨泣き)で即死した、と帰りのタクシー内で聞くと心痛の思いであった。

22日 小雨 / 晴れ

今回初めて上高地に足を踏み入れた。

6時間半かかり沢渡の駐車場に着いたのは2時を回っていた。外は雨が降っている。

少々の仮眠をとり5時前にタクシーで上高地に乗りつけた。料金は4600円でバスだと一人当たり100円ほどしか変わらない。まだ日が上がりきらぬというのにな・な・何という人が・・・、登山客でゴった返しているではないか!、バスから降りてくるパーティー、朝食をとっているパーティー、ミーティングをしているパーティー・・・私はこんなに登山者が大勢いる光景は初めてである。

こりゃどうなることかと思いき、朝霧ただよう中を河童橋に向かって足

早やに歩いていく。気持ちは新村橋を越えて中畠新道で奥又尾根から北穂を目指そうと傾いていたが、河童橋に着く頃には人もまばらになっていたので計画通りの岳沢を詰めて行くことにする。



北穂高山頂にて槍ヶ岳をバックに



素晴らしい避暑地の梓川沿い

さすがに避暑地だけあって素晴らしい景色である、澄みきった梓川はイワナが漂う藻と遊び、カモが水面で羽根をバタつかせて朝の散歩をしている、中州にはカラマツが群生し朝日を浴びてまばゆいばかりだ。

カラマツ、シラビソ、アオモリトドマツ、クマ笹、ダケカンバ、と高度を稼ぐにつれて木々の移り変わりの自然を存分に楽しませてくれている。朝一番の新鮮なフィトンチッドを体一杯に浴びて森のみなぎるパワーをもらい疲れが癒される。

土産物売場のような岳沢ヒュッテを過ぎると、つづら折れのガレた重太郎新道を登りつめていくと、一月前には素晴らしいお花畑だったのであろう、それらは

花びらを散らしもう冬支度の準備をしている。昨日は山も冷えていたのか木々についている朝露が氷となるときおり頭にあたる。

急登、急登の連続で両手で攀じらねば登れないところが多々ある。前穂を目の当たりにしてジャンダルム方



重太郎新道の急登



ブロッケン現る



手のり岩ヒバリ

面をバックに写真を撮っているとその下でいきなりブロッケンが現れ我々を迎え入れてくれた。

雷鳥平あたりで岩ヒバリが人なつっこそうにすぐ側まで寄ってきて餌をおねだりしている姿はなんとも可愛い。

クサリ場を過ぎて紀美子平に到着すると、そこにはどこから来たのかを思うほどの人がくつろいでいた。

ザックをデポして前穂に登り着くとそこは別世界、360°の大パノラマが視界に飛びこんでくる。雪化粧をほどこした富士山を始め、御嶽、乗鞍、そして日本アルプス、遠くに白山・・・、素晴らしい眺めである。

紀美子平から吊尾根を經由して奥穂に行くのだが、これがまたなん



紀美子平への下り・木倉



前穂山頂

とも複雑なコースで1/25000地図を見ても目詰まりしきりである。長い長いクサリ場、危なっかしいトラバースと、ガスってないのが幸いである。

やっとのことで奥穂高岳にたどり着いたのは14時近くになっていた。今回はのんびり登山なのでここで大休止をとることにする。さすがに日本第3峰の山だけあって山頂付近は大にぎわいである。

ここから見えるジャンダルム方面は登山者がときおりその頂きに立っているのが確認できる、しかしさすがに真っ黒い岩峰群がガスで見え隠れするさまは圧倒される雰囲気である。今日穂高に来ている数百人の登山者のうち一体何人が西穂から来ているだろう・・・極少数だろう。

私は7年ぶりに来たこのジャンダルムに気持ちが踊りワクワクしているのだが・・・、ここから3時間かけて北穂の南陵テラスのテン場まで行くべきか、行ったとしたら明朝は南陵テラスから東陵に取り付



きトラバース気味にA沢のコルに合流する予定であるが、初めての穂高の3人には今の疲れようからみて涸沢岳の下りが難儀するのでやめたほうが良いと判断し、ここにザックをデポしジャンダルム方面に遊びに行くことにした。しかし、切れ立った真っ黒い岩峰群の馬の背にさしかかると木倉と陽介はもはや意気消沈で岩に飲み込まれビビリが入って来ているしまつであった、望月は浮き石をガチャガチャ鳴らしながら「ボクは大丈夫ですよ!」と勇んでいた。結局2人にとってこれ以上は危険と判断し奥穂テン場に向かうことにした。

奥穂テン場には15時半ごろに着いたが大にぎわいで張るスペースも少なく結局ヘリポート間近に設営する。ここから涸沢小屋を目がけてザイディングロード経由の滑降は気分爽快であろう。

時間も充分にあるので奥穂小屋テラスで早々と楽しい晚餐会に興じる。奥穂からは涸沢方面に幾度となくブロッケンが見え酒肴には事欠



奥穂小屋への急下降



富士山と南ア連峰



浮遊する笠ヶ岳

かない。道中一緒になった25才のPCソフト開発の若者も加わり時間がゆっくりと流れていく・・・3000 mの稜線で至福のひとつときである。

ガスもすっかり晴れ、雲海に浮遊する白山方面が真っ赤に燃えてゆっくりと夕日が沈んでいく・・・。

23日 快晴

夜中は言うまでもなくダイヤモンドを散りばめた晴れ渡った空であったが、寒さで何度も目ざめ少々寝不足気味、夜中に寒さで合羽を着込んで寝るしまつであった。今朝の気温はマイナス5°を指していた。テント内の水も凍っている。4時頃外に出ると真っ暗であるのに御来光のワンショットを逃すまいとヘッドランプをつけて奥穂岳に登っているパーティがいるが、とても私には真似ができない。



涸沢岳山頂



涸沢岳から前穂、キレット、槍



大キレットへの下り、望月・陽介

5時過ぎ、北八ガ岳、浅間山方面が真っ赤に燃えて山々の間から後光が七色にさしこみ白き雲海が金色の海に変わり生き物のようになごめいている・・・新しい朝のおとずれである。7年まえは濃いガスの朝だったのを思い出す。

朝一番のスタートは涸沢岳 3103 m への急登から始まる。

ここからの景色は圧倒される雰囲気である、涸沢槍からの落ち込みのクサリ場から始まりガレ場を下りコルから南陵に向けて岩綾の急登連続でやっと北穂山頂である、しかしハシゴ場やクサリ場などの一步通行のすれ違いが多く

ブツブツ言う登山者が非常によく目立つ。私はよっぽどザイルを出して別ルートをとって登り降りしようと思ったが何せガレ場は落石が多いのでそれもままならずじまいであった。

この南陵の頭から涸沢小屋めがけての滑降も急斜



南岳にて

面で気分爽快であろうが登山者を目の当たりにしているのが格好良くが先にたつのでそうもいれないか・・・。

北穂の休憩場でしばしの休息をとり飛騨泣きへと進んでいくが、すぐ前に年輩パーティーがいて道を譲ってくれなくてなかなか先に進めないのペースが狂ってしまう。1時間ほど前にここから女性が滑落死したと聞き、成仏して下さいと両手を合わす。

A 沢のコルでやっと道を譲ってもらい大キレットへと登り始めるが大キレットは思ったよりは混んではなくてスムーズに通り過ぎることができた。獅子鼻への直登のハシゴを登り、ぞくぞくする南岳東南稜を見ながら登り詰めると南岳小屋に到着である。ここで大休止のラーメンタイムに舌鼓する。



氷河公園より逆さ槍

しかし、全てが岩稜地帯なので少しも気を緩めることはできないが、雲一つない360°の展望で疲れた体が癒されるのはありがたいものである。7年前はこの道中は全てがガスって目の前に見えるはずの槍ヶ岳が見えないので疲れはてたものである。

南岳 3033 m を過ぎ天狗のコルへの分岐付近は、南岳東南稜を右目に見ながら右俣を大滑降すれば横尾本谷沿いに横尾までの直滑で約 6km 高低差 1500 m の大滑降ができるだろう。

分岐から双眼鏡で槍ヶ岳を見ると思った通り黒山の人ばかりである、これでみんなも諦めがついて天狗のコルへの急直下へと降りて行く。なかなか面白い下りでうかうかしていたら足をすくわれそうである。

コルから左に巻き天狗原へと降りて行く、この辺りはナナカマドの群生林であと10日も経てば真っ赤になり素晴らしい紅葉が拝めるところ



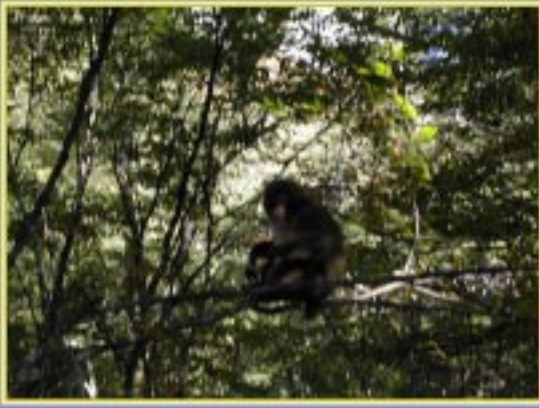
南岳手前の獅子鼻への下り・陽介



南岳から天狗池へに急下降、木倉・望月



殺生ヒュッテと槍ヶ岳



猿

である。天狗池では逆さ槍が見えるとあって有名である、湧き出る水は水温5°らしく非常に冷たい。

天狗池から槍沢分岐地点にトラバースして行くころ標高もだいぶ下がって2350 mである。今までの岩稜地帯も優しい高山食物帯になり緑多しの登山道へと変わっていき、幾つかの沢の合流点を過ぎてやっと16時を過ぎた頃、水の豊富なババ平キャンプサイトに到着。

このキャンプサイトは槍平小屋までが約20分もかかり、受付に行くにもビールを買いに行くにも大変な労力があるので若手メンバーの望月と陽介に行ってもらい、我々はその間にテント設営と食事の準備をする。

河原縁のなかなかこじんまりとしたキャンプ場であるが、ひとたび雪に覆われれば存在はなくなるだろう。

この日の夜は早々にシュラフで快眠して8時間は眠っていただろう。

24日 快晴

高度も低いせいもあり昨日より暖かく感じられるが、やはり濡れたタオルなどは凍っていた。



横尾大橋と前穂高



ハイマツとジャンダルム

今日は下山日なのでひたすら横尾を目指して下っていく。河原沿いの樹林帯で爽やかそのものである、トレイルランにはもってこいのフィールドである。

横尾に着くと立派な山荘が建ち、横尾大橋と名を打つものすごいデッキ吊り橋がある。さすがにここが槍、涸沢、蝶のポイントとあって登山客が非常に多い。

一時間ほどで新村橋に着き、ここから梓川を渡って西側の林道に入ると、いきなり人も少なくなったがその代わりに大きな猿のお出ましである、人慣れしているのか逃げようとしめない。一人だと恐いくらいである。

河童橋に近づく頃には観光客でごったかえしてきてバスターミナルへと足を早めタクシーに乗り込む。

帰りは笠ヶ岳が正面に見える平湯温泉で山の疲れを癒しながら、「これで私の夏も終わったなあ」と感慨にふけていた。色々楽しませてくれた穂高に感謝の気持ちで一杯である。

この次くるのはやはり西穂～槍の縦走であろう・・・やはり北アルプスは変化にとんですごい一言である！。